論文の題名

―論文の副題（サブタイトル）―

マネジメント学部　□□□□□□□□学科

跡見 はな子

１. 　このテンプレートの使い方

表題部分（タイトル・サブタイトル・所属・氏名）、見出し・本文・謝辞・注・参考文献は、このテンプレート（フォーマット）のファイルを用いて、そのまま自分のものに置き換えると、指定の文字の大きさ・書体となる。設定し直す必要はない。表紙は不要である。指導教員の指導のもと、形式を守って執筆すること。

２.　論文の構成

論文題名（副題を含む）・執筆者名（所属を含む）・本文・謝辞・注・参考文献に限定し、記載の順序もこの順序とする。

３.　ページ設定

このテンプレートを自分のものに置き換えていけば、改めて設定する必要はない。（なお、Ａ４判タテ、横書き１段組で、余白は上20mm、左右各20mm、下30mmとなっている。ただし、その設定だけでは、行間等が同じにならないので、このテンプレートを書き換える形で用いること。）

４.　書体（フォント）とスタイル

本文の書体はMS明朝、章節の表題はMSゴシック、英字はCenturyとする。

本文の文字の大きさ10.5pt，章節の表題は11pt、注と参考文献は9ptを使用する。

論文で用いるフォントとスタイルは以下の通りである。（基本的に改めて設定する必要はない。）

4.1　論文題名・サブタイトル

論文題名　18pt　MS明朝　英数はCentury　中央揃え。

サブタイトル　12pt　MS明朝　英数はCentury　中央揃え。

4.2　所属学科・執筆者名

所属学科　10pt　MS明朝。

執筆者氏名　10.5pt　 MS明朝　右揃え。

4.3　見出し(編・章・節・項)

原則、見出しは 11pt　MSゴシック　左揃え。

4.4　本文末の、注の文章

原則、大きさは 9pt MS明朝　行間=固定値10.5pt。

行頭に注番号を置き、さらに全角をあけて注の文章を組む。注の折り返し(２行目以降)の行頭の位置は1字下がりとする。参考文献も同様である。

1)　□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

５.　注について

注は、本文の最後にまとめて掲載する。Wordの「文末脚注」機能を用いるとよい。

なお、Wordの機能を使わない場合、以下の方法で本文中の注番号を作成する。注番号は、本文中にアラビア数字と片パーレンをつけた番号を挿入し、フォントを用いて上ツキ文字とする。12) → 12)

６.　表・図について

本文との間は上下を１行空け、位置は中央揃えにする。本文に大きな空白がないよう、表・図の位置をうまく工夫し、適切な大きさにする。

表・図の番号や題（キャプション）は、上または下に入れる。番号はそれぞれに通し番号（表1、表2、･･･、図1、図2、･･･）をつけ、番号と題の文字はMSゴシックにするとよい。表の題は、上に罫なしのセルを作りその中に入れると，表と表の題がバラバラにならない。

７.　出典について

　論文中にて、他人の意見と自分の意見を分けて示す必要があることなどから、文献の引用・参照等を行ってください。引用・参照した文献は、本文または注で示し、出典を頁数まで記載のこと。分野等によって示し方が異なるので、指導教員の指導を受けること。

謝辞

　書く場合にはこちらに書いてください。

注

1)　注の使い方や、注における文献の引用・参照の示し方等は、分野等によって異なるので、指導教員の指導を受けること。

参考文献

　参考文献は、論文最後の部分にまとめて、基本的に著者名の五十音順（またはアルファベット順）で記載すること。分野等によって示し方が異なるので、指導教員の指導を受けること。

最低限の記載事項として、執筆者、出版年、論文名（書名）、掲載雑誌名、巻号、頁がある。

尚、単行本の場合は、第何版であるか、出版社および出版年を示すこと。

　例　（雑誌論文の場合）　　著者名「論文名」雑誌名○巻○号○～○頁（出版年）

　　　（単行本の場合）　　　著者名『書名[第○版]』（出版社，出版年）

　インターネット上で入手した情報については、タイトル、URL（下線で青く光るハイパーリンクは消すこと）、アクセス（閲覧、検索）年月日の3項目を記載すること。